

野草園及びロックガーデンで2014年に確認された帰化植物

加藤 ゆき恵*

釧路市立博物館に隣接する野草園及びロックガーデン(岩石見本園)にて2014年に新たな帰化植物(外来植物)2種を確認した。いずれの植物も釧路市内各所で生育が確認されているものであるが、野草園及びロックガーデンという限られた区域では初確認と考えられるため、ここに報告する。

・ウスユキマンネングサ(ベンケイソウ科)

Sedum hispanicum L.

高原などの冷涼地の川原や岩礫地の岩上や岩の間に生える多年草(大場2003)で、多肉質(多汁質)の葉を持ち、夏に白い花をつける。原産地はヨーロッパ中部~小アジアで、大正時代に渡来し観賞用に栽培され(大場2003)、1981年に福島県と群馬県に野生状態で生育することが報告された(大場1981)。

北海道内では1997年に苫小牧市、1998年に札幌市北区篠路でそれぞれ確認されており、2000年の時点で苫小牧、札幌、中湧別、佐呂間で報告されている(五十嵐2001)。

釧路市内では市街地の駐車場にヨーロッパタイトゴメ(ベンケイソウ科)と並んで生育しているのを筆者自身で確認したほか、春採湖周辺では東側の湖畔で生育しているという(私信)。

葉は多肉質で乾燥に強く、水はけの良い場所を好むようで、野草園では海浜植物エリアで4株ほどが生育していた。種子やロゼット状の幼個体が鳥などに運ばれたものか、庭園管理のために搬入した土に混入していたものか、侵入の要因は不明であるが、植栽管理地であることから、1個体を残して植物体を採集し、腊葉標本を作成した。標本は釧路市立博物館植物収蔵庫に収めた。

なお、市内園芸店にて鉢植えが販売されていることを確認している(2014年7月)。

・マツバウンラン(ゴマノハグサ科)

Nuttallanthus canadensis (L.) D.A.Sutton

(*Linaria canadensis* (L.) Dum.Cours.)

海岸や草原の砂地、荒れ地に生育する北米原産の越年草で、高さは30~60cm、春から初夏に青紫色の花をつける。blue toadflaxなどの英名を持ち、「花は小さいが“群生するとなかなか美観を呈す”(長田1976)」とされる。1941年に京都で発見され(中井1949)、全国版の帰化植物図鑑では「近畿地方に帰化(長田1972)」、「近畿を中心に瀬戸内にかけて広がり(長田1976)」、「関東地方以西から瀬戸内海沿岸(山崎2003)」のように、近畿地方から分布を徐々に広げていることがわかる。

北海道内では1998年に札幌市豊平区で最初に確認され、翌1999年は千歳市でも報告されている(五十嵐2001)。2004年には苫小牧でも記録があり(中居2004)、2000年以降に道内でも分布を広げているようである。

ロックガーデンでは7月中旬に開花個体を確認した。個体が細くて目立ちにくいものの、園路の脇を中心に数十個体が生育している。越年草であることから、2013年のうちに種子が侵入していたと推察される。高い割合で結実しており、すでに種子散布が終了した花も多数あることから、除去は難しいと考えられる。また植物観察会で紹介したところ、釧路市内の他の場所でも見たという声もあり、由来は不明であるが市内でも分布を広げていると考えられる。なお、2013年以前にロックガーデンでマツバウンランらしき花を見たという情報もある(私信)。2014年の生育範囲は園路沿いに長さ5m以上に達していることから、2013年以前に少数の個体が侵入して種子散布し、2014年に一気に範囲が広がったとも考えられる。

・その他の帰化植物

2000年の時点では道東地域には分布が少ないとされていた帰化植物でも、2014年の時点で博物館付近及び春採湖周辺で多数生育が確認されているも

のが多数ある。ヘラオオバコ（オオバコ科）は五十嵐（2001）では「釧路・根室地方は少ない」とされているが、現在は博物館付近の芝生でイネ科牧草と混ざって一面に広がっている。ハタザオキキョウ（キキョウ科）も2000年時点の道東地域での確認範囲は十勝、網走であったが、現在では釧路市内各地で路傍雑草として生育しており、野草園でも見られる。

・今後について

ロックガーデンは植物を見せる庭園ではないこともあり、園路沿いを中心にセイヨウタンポポ、シロイヌナズナ、キュウリグサなどの外来種、国内移入種が多数生育している。また、2013年9月の台風による土砂崩れ被害復旧のため、2014年5月から9月にかけて湖畔周遊路の法面補強工事が行われており、緑化植物の吹きつけも実施されている。工事車両はロックガーデン横の道路を使用していることから、今後も外来種の侵入に気を配る必要があるだろう。



図1 左：ウスユキマンネングサ（2014年7月1日撮影）
右：マツバウンラン（2014年7月21日採集・撮影）

・引用・参考文献

- 五十嵐 博. 2001. 北海道帰化植物便覧-2000年版-. 北海道野生植物研究所, 札幌.
 亀田龍吉・有沢重雄. 2010. 花と葉で見わける野草(近田文弘監修). 小学館, 東京.
 中井 源. 1941. 新移住植物数種. 植物分類・地理, 14: 15.
 中居正雄. 2004. 苫小牧地方植生便覧-2004年版-. 苫小牧地方植物研究室, 苫小牧.
 長田武正. 1972. 日本帰化植物図鑑. 図鑑の北隆館, 東京.

- 大場秀章. 1981. 野生状態で見出された外来種ウスユキマンネングサ *Sedum hispanicum*. 植物研究雑誌, 56: 332-333.
 大場秀章. 2003. ベンケイソウ科. 日本の帰化植物(清水健美編), p98-99. 平凡社, 東京.
 長田武正. 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社, 大阪.
 梅沢 俊. 2007. 新北海道の花. 北海道大学出版会, 札幌.
 山崎 敬. 2003. ゴマノハグサ科. 日本の帰化植物(清水健美編), p184-191. 平凡社, 東京.